HITACHI

みんなのSX

お客さまの未来と社会に新しい価値を吹き込む、
日立ソリューションズ（以下、当社）の
SX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）。
多様なステークホルダーとの協創を加速し、
価値創出の連鎖で環境・社会・経済価値の
向上をめざす取り組みを紹介します。

本紙は「サステナビリティサイト」の情報を抜粋しています。

くわしくはこちら

03
2026.10



「問い」と「協創」が未来をつくる。AI時代に求められる、人や組織のあり方。

粟井 基修
株式会社日立ソリューションズ
執行役員
サステナブルシティビジネス事業部長

添田 知子
株式会社日立ソリューションズ
執行役員
産業イノベーション事業部長

関 治之
一般社団法人コード・フォー・ジャパン
代表理事／
ソフトウェアエンジニア／起業家

AIの進化など変化のスピードが加速するなか、企業、行政、市民それぞれの役割も問い直されています。こうした時代に重要になるのが、テクノロジーを「何のために使うのか」という視点です。関氏は、AIによってアイデアを形にするハードルが大きく下がったからこそ、「どんな社会を実現したいのか」という問いを持てる人が重要になると語ります。

添田執行役員は、お客さまと対話しながら本質的な課題を見つけ、その先の未来像を描くことが、これからのSIerに求められる役割だと指摘します。また、粟井執行役員は、さまざまな立場の人と現場で対話し、社会課題を自分ごととして捉えることが、本当に意味のある協創につながると語っています。課題設定の段階から一緒に考え、運用や社会実装まで伴走していくことも、私たちに期待される役割です。

AIによって生産性が高まる一方で、人と人との信頼関係や、組織や立場を超えた「ゆるやかなつながり」の重要性も高まっています。「こんな課題がある」「それなら何かできるかもしれない」といった小さな対話から、新しい協創が始まることもあります。一人ひとりが「どのような社会を実現したいのか」という意志を持ち、人々やデータをつなぐことで関連する課題の解決へと広げ、価値の連鎖を生み出していく。その積み重ねが、持続可能な社会の実現につながっていくのです。

くわしくはこちら

株式会社 日立ソリューションズ
https://www.hitachi-solutions.co.jp

グループ一体でSXを社会に循環させる

社会貢献活動

Society





くわしくはこちら

日立ソリューションズ・クリ エイト、日立ソリューションズ・テクノロジー

日立ソリューションズ・クリ エイトでは、専修大学や武蔵野美術大学へ講師を派遣し、ライティングやユーザーインタビューなどの実 践的なスキルを学ぶ機会を提供しています。日立ソリューションズ・テクノロジーでは、秋田大学で「社会 を担う自負心」や「今、必要とされる人財像」をテーマに講義を実施しています。各社の専門知見を活かした 教育支援を通じて、**次世代を担う人財の育成**に貢献しています。



Hitachi Solutions Europe

ポルトガル拠点では、食品ロス削減や持続可能な生活習慣への理解を深めるため、「サステナブル・クッキングセッション」を開催しました。食材を無駄なく活用する調理方法やゼロウェイストの工夫を紹介し、参加者の**環境負荷低減への意識向上**につなげました。



水上 友宏
株式会社日立ソリューションズ
スマートライフソリューション事業部
スマートワークソリューション本部
インフォメーションシェアリングソリューション部
グループマネージャ

五輪 美保
株式会社日立ソリューションズ
スマートライフソリューション事業部
スマートワークソリューション本部
インフォメーションシェアリングソリューション部
技師

横田 雅彦
住友商事株式会社
災害・安全対策推進部
労働安全チーム長

SXの核となる

お客さまとの協創の加速

Co-Creation

住友商事株式会社

誰もが安心して働ける現場へ。
データとAIで進化する労働安全のSX

くわしくはこちら

日本を代表する総合商社として、グローバルにビジネスを展開する住友商事株式会社。「人権の尊重」をマテリアリティに掲げる同社は、「従業員の安全」をグループ全体の経営課題と位置付けています。一方で、それぞれの営業グループが多種多様な現場を抱える中で、事故状況の把握や再発防止策の検討にかかる労力が増大していることが課題となっていました。そこで当社との協創で構築したのが、グループ全社の労災事故情報を一元管理できる**労働災害管理システム「GENSAI」**です。GENSAIは、企業間の情報共有や連携を支援するソリューション「活文 Managed Information Exchange」を基盤システムとして採用。グローバルで発生する労働災害情報を全社統一フォーマットで蓄積・共有する仕組みを構築しています。**AI活用**にも取り組み、蓄積した労働災害情報と同社が有するノウハウを組み合わせることで、グループ全体の**労働安全性向上**を実現。データとAIの活用を通じて、従業員の安全確保と持続可能な社会の実現をめざすSXの取り組みが、今大きく前進しようとしています。





2025年度のサステナ ビリティ経営の実践

「価値創造モデル」を策定

当社がめざすのは、デジタル 技術とリアルが高度に融合し、
人と社会がともに成長し続ける「持続可 能な協創社会」です。その実現に向けて、
未来社会からバックキャスティングし、2025年度に「価値創造モデル」を策定しました。

STEP 1
成長のエンジンと
価値の源泉を可視化

STEP 2
理想の社会 像と
与えるイン パクトを言語化

STEP 3
価値創造の道筋として、
「価値創造モデル」を策定

くわしくはこちら

扇 健一
株式会社日立ソリューションズ
セキュリティソリューション事業部
シニアセキュリティエバンジェリスト
セキュリティデジタルソリューション本部
担当本部長

山田 裕子
株式会社日立ソリューションズ
ITプラットフォーム事業部
データイノベーション本部
担当本部長

SXをリードする

日立ソリューションズのプロフェッショナル

Person

「安全・安心」な
AI活用を支えるふたりの専門家

くわしくはこちら

AIの進化によって企業活動が大きく変わる一方、ハルシネーションや情報漏えい、シャドーAI、AIエージェントのID管理など、新たなリスクも広がっています。こうしたAI時代の課題に向き合うのが、**データ利活用**およびAI事業を担う山田裕子と、**セキュリティ**の専門家として幅広い知見を持つ扇健一です。山田は、生成AIやAIエージェントの活用とデータ・AIガバナンスを両輪に、業務変革や新たな価値創出を推進。扇は、ゼロトラストやOTセキュリティをはじめとする豊富な経験を活かし、AI活用に伴うさまざまなリスクへの対応を支援しています。ふたりが重視するのは、リスクを恐れてAI活用を止めるのではなく、セキュリティの強化と活用を同時に進めることです。AIを正しく使いこなすためのルールや仕組みを整え、一人ひとりが「なぜそうなるのか」「その根拠はどこにあるのか」を問い続け、**AIリテラシー**を育むことも欠かせません。当社は、お客さまの課題に寄り添いながら、システムの導入から運用、ガバナンスの定着まで一気通貫で伴走します。安全・安心なAI活用の基盤を築き、AIを社会課題の解決や持続可能な社会の実現に生かすことで、お客さまのAI活用とSXの実践を支え、新たな社会価値の創出につなげていきます。



Check!

**サステナビリティ
アクションブック2026**

SXの実現に向けたさまざまな取り組みをまとめてご紹介しています。

くわしくはこちら

数字で見る日立ソリューションズ

多様なステークホルダーの皆さまと、ともに歩みながら積み上げてきた確かな実績。それらを定量化したデータからわかる当社の「現在地」です。

従業員数

単独
5,129名
連結 14,630名

グループ会社数

17カ国 28拠点
国内4社 / 海外7社

社外団体への加入数

121団体

販売パートナー数

158社

アライアンスパートナー（グローバル）数

153社

お客さま数

5,800社

ビジネスパートナー数

346社
5,483名

※ 2026年3月末時点

くわしくはこちら

未来へのアクション

社会課題を見つけ、未来を切り拓く日立ソリューションズの探求メディア「未来へのアクション」のなかから
おすすめしたいトピックスをご紹介します。

くわしくはこちら

Pick up!

「AIの進化」と「人の幸せ」を両立させるために私たちがやるべきこと

人とAIの協働の在り方をめぐる試行錯誤が続いています。一人ひとりがより良く働き、より幸せに生きるためのAI活用とはどのようなものか。国立情報学研究所 社会共有知研究センター長の新井紀子氏と、当社の執行役員 スマートライフソリューション事業部長の大池徹が語り合いました。

くわしくはこちら

プレスリリース

くわしくはこちら

News 01 350社以上が利用する
安全保障貿易管理ソリューションで、
AIエージェントが審査業務を支援

News 02 サイバー攻撃の激化と規制強化に対応し、
SBOMで脆弱性管理を高度化する新システムを提供

News 03 量子コンピュータ時代に向け、
耐量子計算機暗号に関する技術検証を実施

News 04 AI時代の安全安心な社会の
実現に向けた取り組みを掲載する
「**サステナビリティ
アクションブック2026**」を公開



私たちと一緒に、未来をつくる仕事をしませんか？

FROM INSIDE
次代の価値を共につくる、未来の仲間たちへ

採用情報や
従業員インタビューなど
「採用サイト」で公開しています。

くわしくはこちら

表紙は、約450件のアイデアをもとに描いた未来のまちを、大阪・関西万博「いのちの遊び場 クラゲ館」で多くの方との協創で彩った画を採用しています。



※本資料中に記載の会社名、商品名、ロゴは各社の商標、または登録商標です。 ※本資料は 2026年8月時点の内容です。記載の会社名、商品名、その他の内容は今後変わる可能性があります。

お問い合わせはこちらまで

TEL.

担当者